

〇〇〇〇〇株式会社 御中

見本

NIKKEI
Annual Report Awards
2017

一次審査結果レポート

2018年1月

日本経済新聞社

NIKKEI Annual Report Awards 2017 審査結果レポート

謹啓 平素は日本経済新聞社に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
 先般ご賛同いただきました「NIKKEI Annual Report Awards 2017」について、貴社の審査結果レポートをまとめました。
 来年度以降のアンニュアルレポートを一層充実したものにすため、ご参考にしていただければ幸いです。

敬具

★審査方法について

審査は2017年12月に実施し、JPモルガン・アセット・マネジメント(株)、エイピーエス・アセット・マネジメント(株)、東京海上アセットマネジメント(株)、大和証券(株)、いちよしアセットマネジメント(株)、富国生命投資顧問(株)、レオス・キャピタルワークス(株)、日興アセットマネジメント(株)、T&Dアセットマネジメント(株)、コモンズ投信(株)、(株)東海東京調査センター、いちごアセットマネジメント(株)、他8社を含む計20社に所属する96名のファンドマネージャー、アナリストの方々にご協力いただきました。
 審査員一覧については14ページに掲載しています。

審査は10の審査項目について、5段階で採点しています。
 1冊のアンニュアルレポートを5名の審査員に採点してもらい、各項目ごとに最高点・最低点を除いた3名の得点を採用・集計し、10項目すべてを合計したものをトータルポイントとしました。本レポートでは項目別・審査員別得点、項目別コメントを集約しています。
 同時に資料として参加企業全体の中での貴社の相対的な位置付け、全体および項目別のポイント上位企業一覧を添付しております。

以上、ご査収のほどよろしくお願い申し上げます。

日本経済新聞社クロスメディア営業局

目次

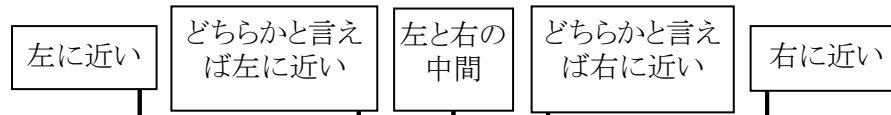
ごあいさつ	1	比較グラフ	9
審査結果	2	受賞企業・審査項目別ポイント上位企業	10～13
審査項目別コメント	3～8	審査員一覧	14

	テーマ	(満点)	Judge A	Judge B	Judge C	Judge D	Judge E	中3名計 (*1)	中3名 全社平均	5名合計 (*2)	5名合計 全社平均
(1)	沿革・業績推移・代表的経営指標	(10 pt)							23.4		38.5
(2)	ビジネスポートフォリオ	(10 pt)							23.3		38.3
(3)	トップマネジメントのメッセージ(経営哲学・経営理念)	(10 pt)							23.6		38.7
(4)	中長期的企業価値向上策と実現のためのロードマップ	(10 pt)							21.1		34.7
(5)	ESGファクターの説明 I (環境と社会)	(10 pt)							21.7		36.0
(6)	ESGファクターの説明 II (コーポレートガバナンス)	(10 pt)							22.7		37.6
(7)	当年度の重点項目説明(トピックス)	(10 pt)							22.0		36.2
(8)	財務データの充実	(10 pt)							19.9		32.9
(9)	ファイナンシャル・サステイナビリティ(持続可能性)へのアピール度	(10 pt)							21.9		36.1
(10)	総合的完成度(バランスも考慮)	(10 pt)							22.6		37.1
TOTAL POINTS		(100 pt)	0	0	0	0	0	0	222.1	0	366.1

*1 「中3名計」は各項目ごとに最高点、最低点を除いた中3名(アミかけ部分)の合計、中3名全社平均は参加100社の中3名計の平均点

*2 「5名合計」は審査員5名のポイントの単純合計、5名合計全社平均は参加100社の5名合計の平均点

貴社のポイント(100pt満点)	(全社平均)
0.0 / 100	74.0



(1) 沿革・業績推移・代表的経営指標

沿革、企業理念が的確に示されている。十分な期間の業績ハイライトが分かりやすく表記されている。十分な期間の企業特性を示すあるいは投資家が重視する経営指標が適切に記載されている。	10	8	6	4	2	沿革、企業理念の表記がない。業績ハイライトおよび経営指標として適切な項目がピックアップされていない。あるいは表記されている期間が3期以下しかなく短い。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(2) ビジネスポートフォリオ

各事業部の内容、ビジネスモデル、SWOT分析(強み・弱み)が明確に示されている。事業部門別損益も詳細に記載されている。	10	8	6	4	2	該当するページがない。各事業部の内容、ビジネスモデル、SWOT分析(強み・弱み)についての説明が貧弱である。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(3) トップマネジメントのメッセージ(経営哲学・経営理念)

トップの経営理念や今後の自ら打ち立てた戦略についてのメッセージが明瞭で具体的でありかつ情熱(パッション)を感じさせるものとなっている。	10	8	6	4	2	形式的・抽象的・情緒的な表現にとどまってトップの気迫と実行可能性が伝わってこない。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(4) 中長期的企業価値向上策と実現のためのロードマップ

中長期の計画や経営目標が記述されおよびそれを達成するためのロードマップを明確に示している。	10	8	6	4	2	該当するページがない。あっても極めて抽象的で投資家にとって参考にならない。経営目標(値)のみが示され具体的な説明がない。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(5) ESGファクターの説明 I (環境と社会)

環境と社会それぞれの活動状況につき企業価値向上と関連付けられて述べられている。特に投資対象企業にとって重要と思われる具体的指標についてピックアップされて記載されている。	10	8	6	4	2	環境と社会の説明について他の報告書(CSR報告書等)からの一部分の単なるコピーとなっており企業価値との関連で述べられていない。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(6) ESGファクターの説明 II (コーポレートガバナンス)

コーポレートガバナンスコードに則して企業価値向上を意識した取り組みを行っている記述がある。報酬に対する説明や社外取締役・社外監査役からの明確なメッセージがある。	10	8	6	4	2	該当するページがない。あるいはあっても説明が不十分である。形式的な叙述に終始している。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(7) 当年度の重点項目説明(トピックス)

当年度の活動において投資家が把握しておくべき重要トピックスとその意義を丁寧に説明している。	10	8	6	4	2	該当するページがない。あっても単なる事項の説明にすぎない。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(8) 財務データの充実

単に決算短信や有価証券報告書の要約に止まらず決算説明会などで開示される投資家にとって有益な情報(主要商品売上別の開示、市場動向など)を組み合わせ読みごたえのある分析しやすいデータになっている。	10	8	6	4	2	単に決算短信や有価証券報告書の要約版あるいは写しとなっている。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

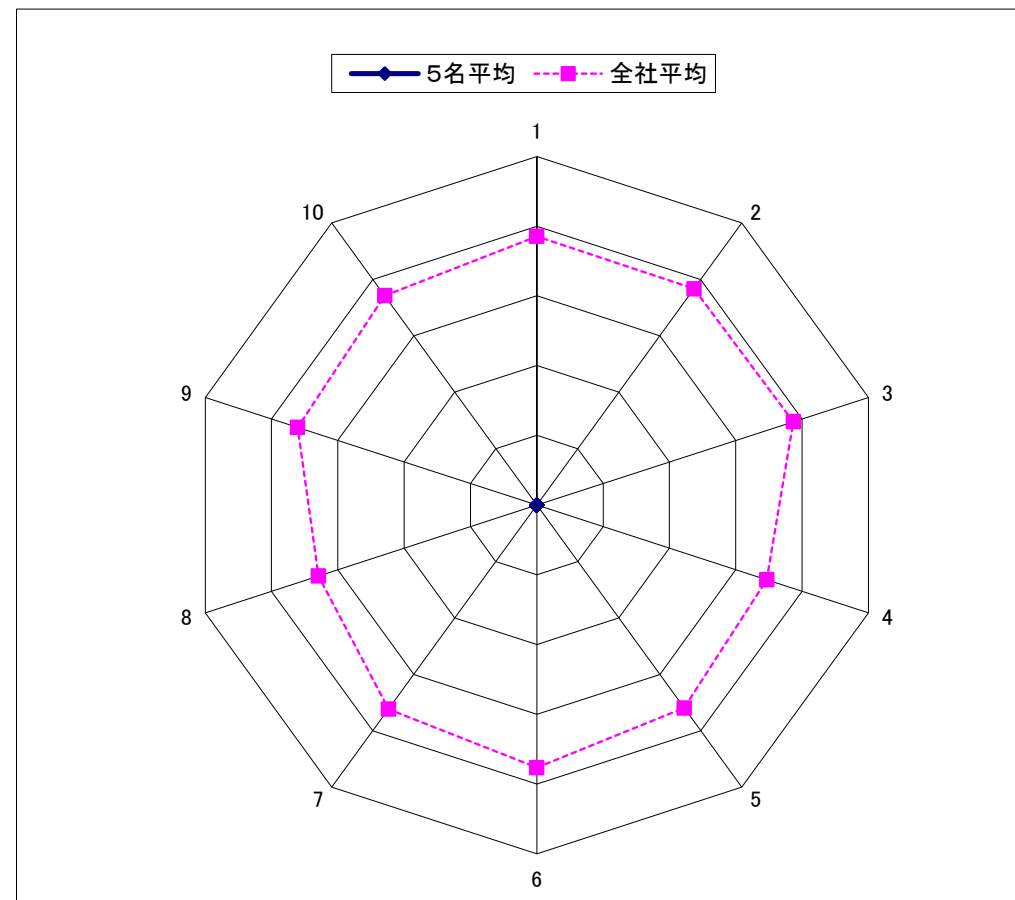
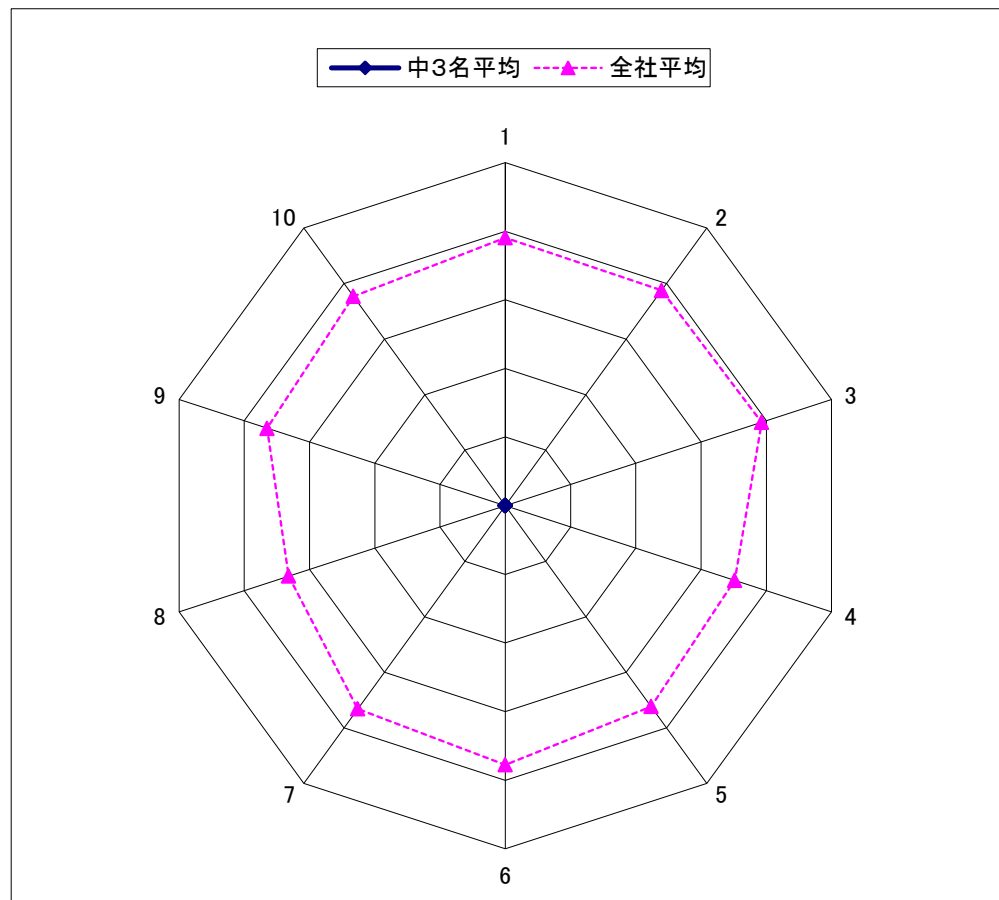
(9) ファイナンシャル・サステナビリティ(持続可能性)へのアピール度

投資家にとってファイナンシャル・サステナビリティのイメージを獲得するため企業側(経営幹部)から冷静な自社(自己)分析を踏まえたうえでの「執念」を感じることができる。	10	8	6	4	2	ファイナンシャル・サステナビリティへの執念が感じられない平板な記述に終始している。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

(10) 総合的完成度(バランスも考慮)

長期投資家にとって知っておきたい点がむらなくバランスをもって表現されており完成度が高い。	10	8	6	4	2	全般的にまとまりが悪く、通読し、結局当該企業に漠としたイメージしか持てない。	(コメント)
Judge A							
Judge B							
Judge C							
Judge D							
Judge E							

比較グラフ



1	沿革・業績推移・代表的経営指標
2	ビジネスポートフォリオ
3	トップマネジメントのメッセージ(経営哲学・経営理念)
4	中長期的企業価値向上策と実現のためのロードマップ

5	ESGファクターの説明 I (環境と社会)
6	ESGファクターの説明 II (コーポレートガバナンス)
7	当年度の重点項目説明(トピックス)

8	財務データの充実
9	ファイナンシャル・サステナビリティ(持続可能性)へのアピール度
10	総合的完成度(バランスも考慮)

受賞企業

<p>グランプリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● オムロン株式会社 	
<p>準グランプリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アステラス製薬株式会社 ● 伊藤忠商事株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ● コニカミノルタ株式会社 ● 大和ハウス工業株式会社
<p>特別賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 三井化学株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
<p>優秀賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アサヒグループホールディングス株式会社 ● ANAホールディングス株式会社 ● MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 ● オリンパス株式会社 ● カゴメ株式会社 ● 株式会社カプコン ● 住友化学株式会社 ● 中外製薬株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京応化工業株式会社 ● 東京海上ホールディングス株式会社 ● 野村ホールディングス株式会社 ● 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス ● 株式会社丸井グループ ● 三井物産株式会社 ● 株式会社三菱ケミカルホールディングス

五十音順

項目別上位企業

【中 3 名 合 計】

(1) 沿革・業績推移・代表的経営指標		point
1	大東建託株式会社	30
1	中外製薬株式会社	30
1	オリンパス株式会社	30
1	伊藤忠商事株式会社	30
(2) ビジネスポートフォリオ		
1	アサヒグループホールディングス株式会社	30
1	三井化学株式会社	30
1	コニカミノルタ株式会社	30
1	オリンパス株式会社	30
1	株式会社カプコン	30
(3) トップマネジメントのメッセージ(経営哲学・経営理念)		
1	カゴメ株式会社	30
1	伊藤忠商事株式会社	30
1	株式会社丸井グループ	30
(4) 中長期的企業価値向上策と実現のためのロードマップ		
1	大和ハウス工業株式会社	28
1	三井化学株式会社	28
1	オムロン株式会社	28
1	シスメックス株式会社	28
1	オリンパス株式会社	28
1	株式会社丸井グループ	28
1	MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社	28
1	ANAホールディングス株式会社	28

【5 名 合 計】

(1) 沿革・業績推移・代表的経営指標		point
1	大東建託株式会社	48
1	中外製薬株式会社	48
1	伊藤忠商事株式会社	48
(2) ビジネスポートフォリオ		
1	オリンパス株式会社	50
2	アサヒグループホールディングス株式会社	48
2	三井化学株式会社	48
2	コニカミノルタ株式会社	48
(3) トップマネジメントのメッセージ(経営哲学・経営理念)		
1	伊藤忠商事株式会社	50
2	カゴメ株式会社	48
2	株式会社丸井グループ	48
(4) 中長期的企業価値向上策と実現のためのロードマップ		
1	大和ハウス工業株式会社	46
1	オリンパス株式会社	46
3	アサヒグループホールディングス株式会社	44
3	カゴメ株式会社	44
3	三井化学株式会社	44
3	中外製薬株式会社	44
3	オムロン株式会社	44
3	株式会社丸井グループ	44
3	MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社	44
3	ANAホールディングス株式会社	44

項目別上位企業

【中 3 名 合 計】

(5) ESGファクターの説明 I (環境と社会)		point
1	味の素株式会社	30
1	日本電信電話株式会社	30
3	カゴメ株式会社	28
3	帝人株式会社	28
3	株式会社三菱ケミカルホールディングス	28
3	DIC株式会社	28
3	株式会社ダスキン	28
3	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	28
3	コニカミノルタ株式会社	28
3	MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社	28
3	東京海上ホールディングス株式会社	28
3	阪急阪神ホールディングス株式会社	28
3	日本郵船株式会社	28
3	ANAホールディングス株式会社	28
(6) ESGファクターの説明 II (コーポレートガバナンス)		
1	カゴメ株式会社	30
1	コニカミノルタ株式会社	30
1	ANAホールディングス株式会社	30
(7) 当年度の重点項目説明(トピックス)		
1	日清紡ホールディングス株式会社	30
2	アサヒグループホールディングス株式会社	28
2	三井化学株式会社	28
2	中外製薬株式会社	28
2	昭和シェル石油株式会社	28
2	株式会社安川電機	28
2	オリンパス株式会社	28
2	伊藤忠商事株式会社	28
2	東京海上ホールディングス株式会社	28
2	ANAホールディングス株式会社	28

【5 名 合 計】

(5) ESGファクターの説明 I (環境と社会)		point
1	日本電信電話株式会社	48
2	味の素株式会社	46
2	株式会社三菱ケミカルホールディングス	46
2	株式会社ダスキン	46
2	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	46
2	コニカミノルタ株式会社	46
2	MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社	46
2	日本郵船株式会社	46
(6) ESGファクターの説明 II (コーポレートガバナンス)		
1	カゴメ株式会社	48
1	ANAホールディングス株式会社	48
3	麒麟ホールディングス株式会社	46
3	味の素株式会社	46
3	コニカミノルタ株式会社	46
3	ナブテスコ株式会社	46
3	オムロン株式会社	46
3	横河電機株式会社	46
3	オリンパス株式会社	46
3	株式会社新生銀行	46
3	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	46
3	株式会社みずほフィナンシャルグループ	46
3	川崎汽船株式会社	46
(7) 当年度の重点項目説明(トピックス)		
1	日清紡ホールディングス株式会社	48
2	アサヒグループホールディングス株式会社	46
2	三井化学株式会社	46
2	株式会社安川電機	46
2	伊藤忠商事株式会社	46
2	東京海上ホールディングス株式会社	46
2	ANAホールディングス株式会社	46

項目別上位企業

【中 3 名 合 計】

(8) 財務データの充実		point
1	オリンパス株式会社	30
1	ANAホールディングス株式会社	30
1	株式会社カプコン	30
(9) ファイナンシャル・サステナビリティ(持続可能性)へのアピール度		
1	大和ハウス工業株式会社	30
2	カゴメ株式会社	28
2	コニカミノルタ株式会社	28
2	オムロン株式会社	28
(10) 総合的完成度(バランスも考慮)		
1	大和ハウス工業株式会社	30
1	カゴメ株式会社	30
1	三井化学株式会社	30
1	伊藤忠商事株式会社	30

【5 名 合 計】

(8) 財務データの充実		point
1	オリンパス株式会社	50
2	ANAホールディングス株式会社	48
2	株式会社カプコン	48
(9) ファイナンシャル・サステナビリティ(持続可能性)へのアピール度		
1	大和ハウス工業株式会社	48
2	コニカミノルタ株式会社	46
3	カゴメ株式会社	44
(10) 総合的完成度(バランスも考慮)		
1	大和ハウス工業株式会社	48
1	三井化学株式会社	48
1	伊藤忠商事株式会社	48

審査員一覧

所属会社	氏名
JPモルガン・アセット・マネジメント(株)	小南 翔太郎
エイピーエス・アセット・マネジメント(株)	井川 智洋
東京海上アセットマネジメント(株)	光田 寛和
	五十崎 義将
	浅野 建
	秋澤 宏典
	夏目 宏之
	平井 克典
	岡田 将行
	大谷 章夫
	森山 茂
	柳澤 祐介
	水野 要

所属会社	氏名
大和証券(株)	山崎 徳司
いちよしアセットマネジメント(株)	戸田 さつき
	関谷 央憲
	三上 健平
	大川 恒
	大谷 樹
	秋野 充成
	金 智行
富国生命投資顧問(株)	森 智勝
日興アセットマネジメント(株)	中野 次朗
T&Dアセットマネジメント(株)	山中 清
	高橋 朋子
	石井 祐貴

所属会社	氏名
コモンズ投信(株)	伊井 哲朗
(株)東海東京調査センター	栗原 英明
	金井 健司
	荒木 健次
	萩原 幸一郎
	中原 周一
	摩嶋 竜生

※注意※ 昨年の審査員の一覧です。

他10社